

令和 5 年度 綾瀬市立綾瀬中学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標	・ 学びを生かす人 ・ 共に生きる人 ・ 健やかな人
学校経営方針 (グランドデザイン)	綾瀬中学校 グランドデザイン(地域と共にある活気あふれる学校を目指して) 学習する生徒のための授業づくりに努め、 学んだことを生かそうとする生徒を育てます。 (授業に意欲的に取り組んでいる生徒が80%) ◇共に学び共に育つ授業の実践 ◇基礎・基本の定着 ◇家庭学習の奨励 ◇読書活動の推進 生徒に寄り添って必要とする支援を行うことで、 自己有用感をもつ生徒を育てます。 (行事や部活動に積極的に参加している生徒が80%) ◇基本的生活習慣の定着 ◇共に考える道徳授業の実践 ◇学校行事等への意欲的な取り組み ◇SC、SSWや外部機関との積極的な連携 保護者や地域と協働して、心と身体の健康を 考える生徒を育てます。 (楽しく登校している生徒が80%) ◇互いの個性を尊重し、他者と協働する力の育成 ◇安全で清潔な環境の整備 ◇学校、学年、学級、保健等、たよりの発行 ◇小学校との交流と連携 学校教育目標 学びを 生かす人 共に 生きる人 健やかな 人 生徒の実態 ・ 素直で明るく、元気なあいさつができる ・ 自己有用感が低く、自主的活動が苦手 保護者の願い ・ 安全で充実した学校生活 ・ 将来に渡り豊かな生活ができるための学力の向上 かながわ教育ビジョン 心ふれあう しなやかな 人づくり 綾瀬市教育の基本目標 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども 思いやりと社会を生き抜く力を育む綾瀬の教育 綾瀬市型小中一貫教育 あやせコミュニティ・スクール 綾瀬市教育委員会 授業の共通理解事項 (私たちの心得) 1 始業チャイム前に教室にいます。 2 授業の始まりは、生徒と共に起立して「お願いします」のあいさつを交わします。 3 本時の学習内容を明示します。 4 本時の振り返りを行います。 5 時間内に生徒の表れを褒めます。

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「学びを生かす人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	生徒の８割が肯定的回答でした。年間を通して、各自がＩＣＴを有効に活用したりお互いの授業を参観したりと授業改善に努めたことが、生徒の深い学びや教職員の意識向上につながっていると思われます。具体的には目標の提示や振り返り活動の徹底をし、書く活動を増やすように心がけました。 さらに、少人数授業や放課後の学習会の開設などで、一人ひとりの課題の克服にも力を入れてきた成果と考えられます。課題としては保護者の肯定的回答が約６割でしたので、家庭学習について「家庭学習の習慣化」を奨励するために学区小学校と小中連携の取組を継続していきます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	９割以上の生徒と８割以上の保護者が「積極的に参加している」と回答しています。このことから部活動や体育祭、合唱祭に対して意欲的に取り組んでいる様子が窺えます。これは、生徒の自主性や主体性を重視し、全教職員がその目的を意識して指導している成果と思われます。行事運営のサポートをしてくださる保護者の方も多く、学校の取組に対する協力と理解が深いと思われます。今後も、生徒が自主的、主体的に取り組むことができる行事の運営を目標としていきたいです。また、自己有用感や達成感を味わえるような活動の支援を心がけていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「共に生きる人」を育てる指導を積極的に行っている。	９割以上の生徒と保護者が「思いやりの気持ちをもって接している」と回答しています。全教職員が「良好な人間関係作り」に努めていると回答しています。昨年度から引き続き、生徒の「思いやりの気持ちをもって接している」と回答した割合は９割以上になっています。本校生徒の素直で心やさしい気質は、教職員、生徒、保護者の人間関係にも支えられていると考えられます。 今後も生徒との良好な人間関係作りを意識し、道徳教育や読書活動の推進に努めるとともに、ＰＴＡあいさつ運動など、保護者と教職員が生徒の健全育成に向けた活動を通して、心の育成を図っていきます。

4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	約9割の生徒が「学校生活が楽しい」と回答しており、学校生活にほぼ満足している様子がうかがえます。これは、普段の授業やクラス活動、また、学校行事や部活動、委員会活動など個々の生徒が活躍できる場があり、それが充実感や満足感につながっているためと思われます。また、書籍が充実している図書館や校庭、教室など、安心して休み時間を過ごせる場所があることも、楽しさにつながっていると思われます。併せて、教職員が生徒一人ひとりのさまざまな課題に丁寧に対応した成果とも考えられます。 一方、人間関係や学習面、生活面などに課題や不安を抱え、学校に来にくくなる生徒が増えていることにも留意し、対応していく必要があります。 今後も月末のスクールアンケート、学級集団アセスメント、教育相談等、生徒理解に向けた相談活動を継続して行うとともに、学級活動における意欲や満足感が高まるようにソーシャルスキルの向上を図り、校内の支援教室、教育支援教室（ルピナス）と密に連携を取りながらいじめや集団不適応等の生徒がなくなるような学校生活の支援の工夫をしていきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	「そう思う」「ややそう思う」という保護者からの回答が占める割合は昨年度より上がり、8割近くでした。教職員の全員が取組を行っているという回答に対し、「あまり思わない」「思わない」という保護者からの回答がまだあることを受け止め、「いじめ0」を目指し、改めて全教職員でいじめの早期発見・再発防止の取組を徹底していく必要があると考えます。 具体的な取組として、月末のスクールアンケートで生徒の状況を把握し、いじめがあった場合は速やかに聞き取りを行いチームで対応します。情報モラル講演会の開催など、SNSが起因するいじめ等の未然防止にも力を入れるとともに、いじめ発生後の指導と見守りを大切にします。併せて、部活動や学級活動で、いじめ防止宣言の作成、道徳科の時間では生徒の心の教育に努め、一人ひとりが人権を大切にする学校・学級づくりを目指した指導に努めていきます。 また、日ごろからご家庭と学校とで情報共有を行い、連携した対応ができるよう心掛けていきます。

6 保健管理	学校は、「健やかな人」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	約8割の生徒や保護者が、健康や体力に関心を持って生活しています。教職員も9割以上が肯定的な回答であり、生徒の姿に反映されているのではないかと考えられます。コロナ対応が変わり、以前の生活に戻りつつある中、生徒の生活に安心した様子が見られるようになってきました。 今後も、生徒の心と身体の成長にむけたきめ細かい支援を行い、より一層指導の充実を図りながら、生徒が健康に学校生活を過ごせるように努めていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	全教職員が、生徒の安全を意識した教育活動を実践していると回答し、9割以上の教職員が施設の点検・整備にも努めていることがわかります。さまざまな場面において、非常事態を想定し、生徒の安全確保に対する教職員の問題意識が高まっている成果だと思われます。 今後も、地震・天候災害等を想定した防災教育を再検討し、計画的に実施し、生徒・教職員の災害時の対応にむけた意識を高めるとともに、定期的な施設の点検・整備をすすめていきます。併せて救命処置の研修を教職員だけでなく、部活動代表生徒などにも実施しており、生徒の安全に努めていきます。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	すべての教職員が個に応じた支援の工夫をしていると回答しています。 しかし、個々の生徒への対応が増え、ニーズに応じた支援が追い付いていないと感じた場面も少なからずありました。 今後も、教職員の共通理解のもと、生徒一人ひとりの課題や教育的ニーズに応じた支援が強化できるように、支援ルームの活用や支援担当職員による教室での支援等、校内の支援体制の整備に努めていきます。 また、保護者との強固な信頼関係を築くとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用や教育相談関係機関とも連携を強化し、より充実した生徒支援に取り組んでいきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	肯定的評価をした教職員が約9割でした。校長を中心とし、各グループの所掌事項や昨年までの取り組みの確認をグループリーダーを中心として行ってきた結果と考えられます。 今後も、学校運営組織がより機能するように、建設的に評価・見直しを行い、連携・協働して業務が遂行できるように意識向上を図っていきます。経験の浅い教職員の育成も校内で図り、学校運営を強化していきます。

10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	「指導力向上・授業改善にむけた校内研究」への取り組みは約9割、「教師の力量を高めるための研修」への取組は、昨年度より増え7割以上の教職員が肯定的な回答をしています。 今後も、教科指導力を高めるために校内研究を通して授業改善にむけた取組を推進していきます。 また、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	すべての教職員が、学校教育目標を意識した教育活動をしています。しかし、保護者のアンケート結果からは「そう思う」「ややそう思う」を合わせた回答は約6割であり、十分に保護者へ伝わっていない現状があります。今後も、あらゆる機会に保護者への学校教育目標の周知を図るとともに日々の教育活動への参観の呼びかけを工夫していきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	昨年度に比べ肯定的回答が増加しました。その中でも「そう思う」と回答した保護者が約4割となっています。学校だよりを新たに創設したことも理由に考えられますが、今年度導入した学校情報配信システムは欠席連絡の用途もあるため、多くの保護者がスマートフォン等にインストールしています。このことから、保護者に学校の様子がより伝わることになったと考えられます。今後も、保護者にとって必要な情報、学校行事での生徒の様子を学校だより、学年だより等で適宜発信し、懇談会や保護者全体会等を通して生徒の様子や課題などを伝え、学校からの情報を家庭に届けていきます。地域に対して学校の情報をお知らせする手段としては学校ホームページがありますが、別の方法でもお知らせしたほうがよいか検討していきたいと思います。 また、今年度は、体育祭などの学校行事を多くの地域の方々に参観して頂き、地域の中の学校であるということを実感しました。今後も地域の方々の協力を得て、学校運営をしていけるよう積極的に広報をしていきます。

【学校運営協議会からの意見及び改善策】

- SSWやSCに相談したいと思う保護者はいるが相談の仕方が分からないので、子供のことを相談するための案内や方法論を伝えてほしい。
- いじめの早期発見・再発防止に関して保護者の回答と教職員の回答に大きな差が見られる。ここに、改善のヒントがあると考えられる。保護者と学校とで連携をできるとよい。
- 今年度より新しくなった「学校教育目標」はすべての学校教育活動の中心となるため、保護者にも広く周知するための工夫を考えてほしい。
- 全体的にアンケート結果が向上していることは評価できる。
- 家庭学習の時間が少ない生徒に対して、スマホの利用を21時までにするように働きかけたり、帰宅後も自ら学習してみようと思える授業の工夫をしたりと今後も続けていきたい。